

まど

～試験・研究通信～

鈴木 達郎氏

(北海道農業研究センター畑作
研究部遺伝資源利用研究室)



鈴木達郎氏

チン分解活性の低い素材を選抜しています。

「スプラウト」(芽出し)を行っていません。

野菜として有望である。これらの研究を通じ、

ことも分かってきまし道産ダツタンソバの高付

加価値化に貢献していきます。

その一方で、強力なルチン分解活性を同時に持つため、ダツタンソバ粉以上(乾燥

目されている「ダツタン」に水を加えるとルチンは重なり

「ソバ」。当研究センターあつという間に分解してにルチンを

が育成した「北系1号」しまします。製品の中に含み課題

(品種登録出願公表中)は、加工方法によってルチン分

の登場により、本格的なチン分解を抑えたものも

国産品種の栽培が進み、ありますが、その分コストと無い

道内で産地が形成されてトがかかります。

います。

そのためルチン分解活の心配はあ

ダツタンソバの特徴の性が低い品種の開発が求めません。

ひとつは「ルチン」(抗酸められていますが、有今年4月

化能・高血圧防止などの効な選抜方法がこれまでに採択され

機能性を持つポリフェノ無かったため研究は進んだ都市エ

ール)の含有量が多いこでいませんでした。

とです。ダツタンソバ種とこころが今回、効率的連携促進事

子は普通ソバの数十倍の選抜を可能にする新事業では、ダ

ルチンを含みます。法開発に成功し、現在ルツタンソバ

ダツタンソバ (北系1号)の種子(下)と、ダツタンソバスプラウト



広がる国産ダツタンソバ

効率的な素材
選抜法開発